

一般社団法人電気学会 電力・エネルギー部門 ニュースレター

目次

B 部門大会の開催案内	1
研究グループ紹介	2
学界情報	3
海外駐在記事	4
調査研究委員会レポート	5
用語解説／論文誌目次	6
学会カレンダー	7
シンポジウム開催案内	8

令和 8 年電気学会 電力・エネルギー部門大会の開催案内(第 4 報)

会 期 令和 8 年 9 月 16 日（水）～ 18 日（金）
会 場 千葉大学 西千葉キャンパス
〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町 1-33
<https://www.chiba-u.ac.jp/campus/>
主 催 電気学会 電力・エネルギー部門（B 部門）
共 催 千葉大学、電気学会 東京支部
協 賛 電子情報通信学会、照明学会、電気設備学会、静電気学
会、映像情報メディア学会、情報処理学会、日本技術士
会、日本 CIGRE 国内委員会、低温工学・超電導学会
後 援 IEEE Power & Energy Society Japan Joint Chapter
大会 Web サイト https://www.iee.jp/pes/b_event_r08/
大会実行委員会 Web サイト https://ieej-pes.org/pes_2026/
大会参加費

区 分		通常申込
会員 (不課税)	正員	21,000 円
	准員・学生員	10,000 円
	学生聴講のみ	2,000 円
会員外 (税込)	一般	43,000 円
	学生	15,000 円
	学生聴講のみ	3,000 円
正員入会キャンペーン（不課税）		28,200 円
論文集ダウンロード権のみ（税込）		8,000 円

- ・一般（会員外）の参加費を改定しております。是非、本大会への参加を機に、正員入会キャンペーンをご活用ください。
- ・大会参加費には、論文集（ダウンロード形式）の料金が含まれます（「学生聴講のみ」は論文集の配布はございません）。
- ・大会参加費は、座長にもご負担いただいております。また、事業維持員の方は会員外と同額となります。
- ・一般（会員外）の方を対象に、大会への参加を機に電気学会に正員として入会されると初年度会費を 6,000 円減額するという大変お得な正員入会キャンペーンを実施します。なお、他の入会キャンペーンとの併用はできません。

オーガナイズドセッション

- (1) 超電導技術の現状と電力・エネルギー分野への活用に向けて
- (2) 蓄電池の電力系統利用推進と安全・安心な活用に向けて
- (3) W-B-M-H クロスセクター・リンケージ～電力系統制約下におけるマルチモーダル・システム～
- (4) ランチセミナー「再生可能エネルギーはどのように電力システムを支えるか～抱える課題と打開策」
- (5) 災害時の地域レジリエンス強化のための防災情報共有化方策～異業種連携の在り方～

International Session with EPSS

日時：令和 8 年 9 月 17 日（木）9:00～12:05

KIEE：

- (1) "Analytical approach for temporary frequency support strategy of VSC HVDC" Junghun Lee (Korea University of Technology and Education)
- (2) "Neural Unit Commitment with Feasibility Guarantees" Jip Kim (Korea Institute of Energy Technology)

IEEE PES Thailand Chapter：

- (1) "Design of Optimal BESS Scheduling Using Day-Ahead and Hour-Ahead Forecasts for BEMS" Phatcharapohn Duangpenmas (Chulalongkorn University)
- (2) "Techno-Economic Assessment of PV-BESS-Hydrogen Hybrid Power Supply for Data Centers" Jirawadee Polprasert (Naresuan University)

CIGRE Café at IEEE PES Conference

日時：令和 8 年 9 月 17 日（木）11:30～13:20

詳細は、日本 CIGRE の Web サイト（<https://www.cigre.jp/events/detail/3/0/210>）をご確認ください。

座 談 会

- (1) 海底直流ケーブルの敷設・防護技術、敷設船開発の最新動向
- (2) 電力系統への AI 最新技術適用の現状
- (3) カーボンニュートラルを支える「影の主役」一大電流・高電圧の計測・モニタリング技術と熱プラズマ（スイッチングアーク）の観測・可視化技術の最前線
- (4) 研究の先、どうする？ ―ちょっと先を行く研究者に聞く、仕事とキャリアのリアル―

特別企画

日時：令和 8 年 9 月 17 日（木）13:30～17:15

会場：千葉大学 西千葉キャンパス けやき会館

特別講演

電力・エネルギー分野における最新技術トピック

講演者（順不同）

- 江崎 浩 氏（東京大学 情報理工学系研究科 教授）
岡本 浩 氏（東京電力ホールディングス(株) 上席フェロー）
塩崎 宏司 氏（名古屋大学 未来材料・システム研究所 特任教授）
林屋 均 氏（東日本旅客鉄道(株) 研究開発センター所長）
林 秀樹 氏（(株)日立パワーソリューションズ デジタルサービス 戦略推進室長）

懇 親 会

日時：令和 8 年 9 月 17 日（木）18:30～20:45

会場：ホテルポートプラザちば 2 階「ロイヤル」

テクニカルツアー

A コース 見学先：JFE スチール（株） 東日本製鉄所

日 時：令和 8 年 9 月 18 日（金）9:00～12:30

B コース 見学先：JFE スチール（株） 東日本製鉄所

（株）昭電 テクノセンタ

日 時：令和 8 年 9 月 18 日（金）9:00～16:00

大会参加申込方法

<通常申込> 受付期間（予定）：令和 8 年 8 月 7 日（金）9 時～

9 月 18 日（金）15 時

大会 Web サイトにおいて、大会参加の通常申込を受け付けます。大会参加費の支払い方法は「クレジットカード決済のみ」となります（現金払いはありません）。

通常申込頂いた方は、大会 Web サイトにおいて参加費の支払いを完了した上で、大会当日、会場の受付にお越しください。大会参加章などの大会配布物をお渡しします。

懇親会ならびにテクニカルツアー参加申込方法

大会実行委員会 Web サイトをご確認ください。

キャンセルポリシー

大会 Web サイトをご確認ください。

問合せ先 〒102-0076 東京都千代田区五番町 6-2 HOMAT HORIZON ビル 8F
電気学会 事業サービス課 電力・エネルギー部門大会担当 E-mail: pes@iee.or.jp

研究グループ紹介

東京科学大学 工学院 電気電子系 有機エレクトロニクス研究の紹介

間中 孝彰（東京科学大学）

1. はじめに

我々の研究室（間中・田口研究室）では、有機エレクトロニクスと誘電体物性を基盤として、有機半導体デバイスの基礎と応用に関する研究を進めている。近年、有機材料の「柔らかい」「軽い」といった特長を活かし、フレキシブルデバイスやユビキタス社会を支える新たな電子デバイスへの期待が高まっている。一方で、有機材料は無機半導体とは異なる複雑な電荷挙動を示すため、その本質を理解した上でのデバイス設計が重要である。そこで当研究室では、有機材料を単なる半導体としてではなく、誘電体としての性質にも着目して捉え、「分極」と「電気伝導」という二つの観点から、有機デバイスの動作機構解明と高性能化に取り組んでいる。

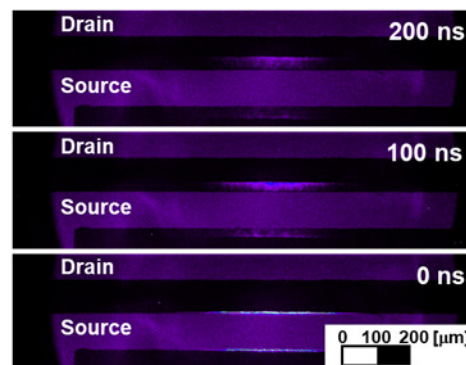
2. 研究室の特色

当研究室は、教授・准教授・助教からなる教員体制のもと、有機エレクトロニクス、誘電体物性、新規測定技術を横断する研究を展開している。研究キーワードとしては、有機トランジスタ、摩擦発電、有機 EL、有機太陽電池、有機メモリ、非線形光学、誘電分極、シフト電流などが挙げられる。特に、有機半導体を「絶縁体に近い材料」として扱う独自の視点に立ち、従来の半導体デバイス論だけでは捉えにくい現象を、誘電体工学の立場から解釈している点が本研究室の大きな特色である。

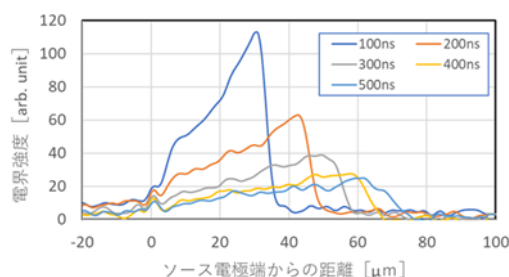
3. 主な研究内容

当研究室の研究の一つは、時間分解顕微 EFISHG 測定を用いた有機半導体中のキャリア輸送評価である。光第二次高調波発生（SHG）が材料中の分極に敏感であることに着目し、これを利用してデバイス内部の電荷分布や輸送挙動を可視化する手法を開発した。有機デバイスでは、電極界面での電荷注入、膜内部での移動、局所的な蓄積等が複雑に絡み合って特性を決めるが、この手法により、従来は電気特性の総和としてしか捉えにくかった内部現象を、空間的・時間的に評価することが可能となる。

この計測技術を基盤として、有機トランジスタ、有機太陽電池、有機 EL などの各種有機デバイスの動作機構解明を進めている。具体的には、電気測定と光学測定を組み合わせることで、電荷注入障壁、輸送過程、再結合、分極応答などがデバイス特性に与える影響を解析し、材料・構造・駆動条件の最適化へつなげている。このように、測るための技術開発そのものが、デバイス高性能化のための設計指針を生み出している点が、本研究室の研究の大きな特徴といえる。



(a) ポリマー FET で観測される SHG 像の時間発展の様子。ソース電極端から SHG の発光帯がドレイン電極側に移動している。これはホール輸送を示している。



(b) SHG 像から得られる電界分布の時間発展の様子

図 1

さらに、摩擦発電に代表される物理的刺激による発電現象についても研究を進めている。摩擦発電では、材料界面における電荷の生成・蓄積・緩和や双極子の応答が発電特性を左右すると考えられるが、その詳細な機構には未解明な点も多く残されている。当研究室では、電気測定に加えて光学的手法も活用し、界面近傍の電荷・分極挙動を可視化・解析することで、摩擦発電のミクロな発現機構の解明と、高性能なエネルギーハーベスティングデバイスへの展開を目指している。

4. おわりに

間中・田口研究室では、誘電体工学を基軸として有機材料中の見えない電荷・分極挙動を解き明かし、その知見を有機デバイスの高性能化と新規機能創出へ展開している。今後も、新規測定技術とデバイス研究を両輪として、有機エレクトロニクス分野の発展に貢献していきたい。

(2026 年 6 月 16 日受付)

IEEE PES-IEEE PES Thailand Joint Symposium 2026 報告

植田 喜延 [(株)明電舎]

1. はじめに

2026 年 3 月 6 日（金）に、タイ・バンコク市内の Pathumwan Princess Hotel において IEEE PES タイ支部との合同シンポジウムを開催した。コロナ禍後恒例となっている、現地対面および Zoom を用いたハイブリッド形式での開催となった。日本から 8 件、タイから 5 件、合計 13 件の論文が投稿・発表された。また現地参加者は 24 名、オンライン参加者は 20 名であった。活発な質疑応答が行われ、盛況なシンポジウムとなった。

2. 合同シンポジウムの概要

本シンポジウムは、電気学会の国際化を目的に 2000 年に電気学会（本部）とタイ王立工学会の間で締結された協力協定にもとづくものであり、2006 年にタイ国王在位 60 周年記念行事の一環として電力・エネルギー部門が参画する形で本部行事として合同シンポジウムを開催したことを契機としている。2010 年には電気学会電力・エネルギー部門と IEEE PES タイ支部の間で協力協定と合同シンポジウム協定が締結され、2012 年からは毎年シンポジウムを開催（2014 年は日本のみで開催、2020 年は日本からは不参加、2021、2022 年はオンライン開催）している。

3. 合同シンポジウムの状況

合同シンポジウムは、タイ Chulalongkorn 大学の Dr. Channarong による司会の元進行され、最初に電気学会 B 部門からは高尾副部門長、IEEE PES タイ支部からは副会長の Dr. Nopbhorn Leeprechanon による挨拶があった。高尾副部門長はビデオメッセージ、Dr. Nopbhorn はオンラインでの挨拶であった。

セッションは昼休み・休憩を挟んだ 4 セッション構成のプログラムであった。1 件あたり 20 分で進行し、予定通り終了した。

4. おわりに

電気学会全国大会や、各大学の卒業／修了論文発表・卒



図 2 発表の様子



図 3 会場の状況



図 4 集合写真



図 1 高尾副部門長挨拶の状況

業式と重なりにくい 3 月初旬に開催したことで日本からの参加者を確保することができたと思う。開催後のアンケート結果より、現地参加の希望の割合が大きいものの、Web であれば参加したい人もいたため、今後もハイブリッド開催を企画していきたい。

また、前回に引き続き、日本側の論文について電気学会共通英文論文誌の特集号を企画した。5 件の論文が特集号に投稿されており、電気学会の活性化にも貢献できると期待している。

(2026 年 6 月 16 日受付)

海外駐在記事

英国ロンドン駐在記－日常と仕事に見る日本との違い

千貫 智幸〔三菱電機(株)〕

1. はじめに

私は2025年7月より英国ロンドンに居を移し、BLENder⁽¹⁾をはじめとする弊社製品・技術を活用したデジタルエネルギーソリューションのグローバル事業拡大に貢献すべく、関係会社であるMitsubishi Electric Europeに駐在している。本稿では、初めての海外長期滞在を通じて感じた、日常生活と仕事の両面における英国と日本の文化の違いについて述べる。

2. 多様性のロンドン

英国に住んでまだ1年も経っておらず、語るには10年早いかもしれないが、ロンドンという都市に対する私の印象を一言で言えば「圧倒的多様性」である。

人に目を向ければ、ロndonは世界有数の多国籍都市であり、欧州のみならずアジア、中東、アフリカなど様々な民族・宗教・国籍の人が移り住み、暮らし、働いている。娘の通う現地小学校には、なんと60か国以上ものルーツを持つ生徒が在籍しているとのこと。なお、私の所属するPower System Groupも14か国籍のメンバーから構成される。

言語の面では、もちろん英語が公用語だが、生粋のネイティブスピーカーによる英語ばかりではなく、街中やビジネスの現場でも、非ネイティブによる「意思疎通重視」の英語がよく飛び交っている（私自身もその一人）。そして有難いことに、このような多様な英語を受け入れる寛容な文化が存在するのも、ロンドンの特徴かもしれない。

街の雰囲気にも、この「ごったまぜ感」は表れている。歴史を大切にす文化に加え、地震がほとんどないこともあるのだろうが、築100～200年の住宅・建物が内装のリノベーションを繰り返して当たり前現役として使われているのには驚いた。ロンドン中心部を見ても、200m級の近未来的なビルやタワーのすぐ横に、10世紀に起源を持つ寺院・旧宮殿が立ち並んでいる。

このように多様な国の人々を抱え、歴史と新しさが同居するロndonは一見、無計画的にも見える。だが、意外にもそれらは一体として調和しており、その集合体こそが、世界有数のビジネス都市であり人気観光地でもあるロndonを形作っているようにも感じる。

3. 生活面での日本との比較

「多様性」という言葉はポジティブな響きがあるが、時にそれはある種の効率の悪さに繋がることもある。誤解を恐れずに言えば、日本のように共通の文化・価値観・言語を持つ人が多く暮らす国と比較すると、便利さ・サービス品質・インフラの安定性を日本ほど高い水準で維持するのは難しいのかもしれない。ただ、備え付け家電がよく故障し、



図1 テムズ川越しのロンドン中心部（珍しい快晴とともに）

店員の接客も丁寧でなく、電車も頻繁に止まるロンドンでも、何も問題ないかのように生活している人々を見ると、ひょっとしたら日本の方が過剰品質なのかもしれない、と思うこともある。

4. 英国のビジネス慣習

こちらを語るには20年早いかもしれないが、英国のビジネス慣習について気づいた点を2点だけ述べたい。

1つ目、ミーティングの効率はやはり良い。特に社外打合せでは、資料を事前に送付し相手方はそれを読んだ上で打合せに臨むのが基本になっている。打合せの前に、資料に対するコメント・回答を一式受領したこともあった。このため当日は背景説明に時間を使いすぎることなく、早々に論点に入れる点は個人的に良い慣習であると感じている。

2つ目、英国紳士という言葉もあるが、特にビジネスの場でネイティブの英国人は本当に紳士的で丁寧である。意見を聞いてもポジティブな回答が返ってくることが多い。逆に否定的な場合でも直接的にそれを伝えることは殆どなく、婉曲表現や仮定を巧みに使い配慮しつつ意図を伝える印象があり、注意深く聞かないと本当は否定的であることにすらなかなか気づくことができない。同僚であってもよほど関係が深まらない限り、本音や率直な意見を聞くには至らないのが実情である。

5. おわりに

まとめると、ロンドンの生活には多様性とそれによる不便さがある一方で、対照的に、英国のビジネス慣習には効率性重視の考えや、すべてを言葉にしないハイコンテキストな文化も少なからず存在するといえる。私も「多様性」を言い訳せず、より効率的な仕事ができるよう自分の英語力・ビジネス力を磨いていきたいものである。

文 献

(1) 電力 ICT ソリューション：「BLENder」, Mitsubishi Electric

(2026年6月16日受付)

調査研究委員会レポート

系統運用者教育・訓練体系調査専門委員会

委員長 和山 亘

幹事 高橋 吉文，幹事補佐 大條 由和

1. はじめに

一般送配電事業者各社では、電力システム改革や再生可能エネルギー導入拡大などに伴い系統運用ルールが複雑化している中、地震や豪雨・台風などによる大規模停電への迅速かつ適切な対応のためにも系統運用技術の継承や人材育成の必要性が大きくなっている。さらに、少子高齢化の進行・人口減少や学生の電気工学分野離れ等もあり、系統運用部門においても系統運用者の人材不足や主要な人材育成手段である OJT が困難化することも想定され、更なるシステムの活用や系統運用者の効果的な教育・訓練の重要性は増している。

そこで本委員会では、系統運用者に対する教育・訓練の現状を調査・分析し、課題や将来の展望についてまとめた。

2. 活動内容

本委員会は、2024 年 7 月発足から 2 年間に亘り計 8 回の委員会と計 10 回の作業会を開催し、一般送配電事業者各社が個別に実施している知識教育や技能訓練の体系およびその具体的な実施方法や評価手法などを始め、訓練用シミュレータの設置状況やその機能、また、他業界と諸外国における訓練の状況などについて幅広く調査・分析を行った。

3. 活動結果

今回の活動で調査・分析を行った結果を以下の項目に整理し、一般送配電事業者間の比較や系統運用者教育・訓練の課題整理および DX 化事例の収集などを行った。

- (1) 系統運用者の現状と取り巻く状況変化
- (2) 系統運用者の役割と運用体制
- (3) 教育・訓練体系の概要（DX 事例含む）
- (4) 知識教育
- (5) 技能訓練（シミュレータ訓練）
- (6) 訓練用シミュレータ

調査・分析を行った結果から、基礎から専門的な内容まで多岐に亘り実施している知識教育においては、AI による教材作成や DX の積極的導入により理解度向上や効率化が期待されること、シミュレータを用いた実践的な訓練を実施している技能訓練においては、再生可能エネルギー大量導入による系統の変化や電力システム改革に伴う運用環境の変化を再現することで更に技能向上が期待できることをまとめた。



図 1 第 5 回委員会時集合写真

また、2025 年 9 月には、琉球大学で開催された電力・エネルギー部門（B 部門）大会において、「系統運用者への教育・訓練の現状と今後の課題」と題して応募型座談会を開催し、本委員会の活動状況を紹介した。

4. まとめ

今回調査した内容については、技術報告「系統運用者教育・訓練体系 2026 年版」にとりまとめて発刊する予定としている。

系統運用業務については、将来的に AI 活用による事故復旧機能の高度化も期待されるが、当面は機能の高度化を目指しつつ、系統運用者が引続き実践的な訓練を積み重ね、技能向上と電力の安定供給に取り組んでいく状況は継続するものと思われる。

本委員会は 2026 年 6 月で解散予定であるが、AI 活用や DX 導入促進等により系統運用および教育・訓練環境に大きな変化があった場合には再度調査していく。

委員会構成メンバー

委員長	和山 亘（東北電力ネットワーク）
委員	青野洋二（四国電力送配電）、天野博之（電力中央研究所） 細川佳寛（中国電力ネットワーク）、石丸将受（東海大） 河北倫具（九州電力送配電）、大岡弘和（三菱電機） 金子曜久（早稲田大）、久保川淳司（広島工業大） 小林尚志（東芝）、清水康広（北陸電力送配電） 造賀芳文（広島大）、高野浩貴（岐阜大） 高山 厚（日立製作所）、村上和由（東京電力パワーグリッド） 仲泊明徒（埼玉大）、藤田吾郎（芝浦工業大） 親田政明（沖縄電力）、船越秀男（関西電力送配電） 藪野成人（北海道電力ネットワーク）、有吉信行（中部電力ネットワーク）
幹事	高橋吉文（東北電力ネットワーク）
幹事補佐	大條由和（東北電力ネットワーク）

用語解説 第 186 回テーマ：ブッシング

福濱 大河〔SWCC(株)〕

1. ブッシングとは

ブッシングは、“壁又はタンクなどの隔壁を貫通する導体又は導体を通す通路をもち、これを隔壁から絶縁し、支持する装置”である。図 1 のように変圧器等の隔壁を有する機器に、絶縁しながらリード線を接続する際等に使用される。

2. ブッシングの構造と役割

ブッシングの基本構造を図 2 に示す。外被材料の違いとして、磁器ブッシングとポリマーブッシングの 2 種類に区分けされる。中心導体と外被材料の間には、内部充填材料として絶縁物やコンデンサコア材料が使用される。

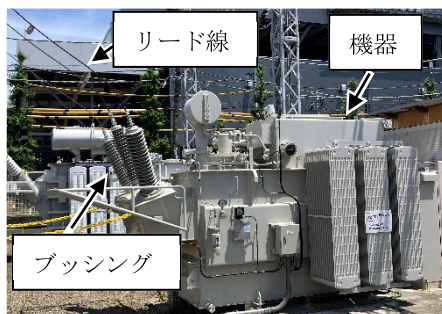


図 1 ブッシングの使用例

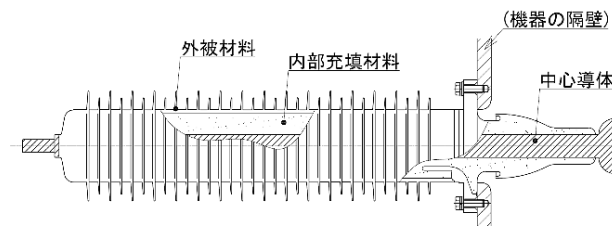


図 2 ブッシングの構造（ポリマーブッシングの例）

外被は、気中での閃絡を防ぐため、表面漏れ距離を十分に確保できるよう、ひだ状の形状が採用されている。必要な表面漏れ距離は、使用地区の汚損状況に応じて設計される。2019 年にブッシング規格 JEC-5202 が改訂され、ポリマーブッシングが適用範囲に追加されたことから、従来の磁器ブッシングに加え、ポリマーブッシングの適用が拡大しつつある。

出 典

(1) ブッシング JEC-5202:2019, 電気学会電気規格調査会標準規格 (2019)

(2026 年 6 月 16 日受付)

目 次

電力・エネルギー部門誌 2026 年 9 月号

(論文誌電子ジャーナル版 <https://www.iee.jp/pub/journal/>)

〔解説〕

インバータによる系統安定化対策の効果と留意点

……白崎圭亮, 平川遼太郎

〔論文〕

長距離交流ケーブル送電におけるアーク抵抗モデルを用いた電流零ミス現象の検討 ……森下 翔, 腰塚 正
地域マイクログリッドにおける仮想配電線として機能する EV と蓄電池の協調制御の評価

……林田 淳, 原 亮一, 九蘭和樹, 中島達人
需要家行動の不確実性を考慮した多種リソース VPP 向け運転計画最適化

……渡 大地, 中垣和歌, 前田翔太, 沖野健太
再エネと蓄電池を伴う M-G セットの軸ねじれトルクの最大値に関する基礎検討

……青木 廉, 天野博之, 片岡良彦, 父母靖二

平衡事故時にインバータ連系電源が系統側距離リレーの演算に与える影響の分析

……会田峻介, 山岡史周, 天雨 徹

二相流数値解析による PEM 水電解の流路構造が気泡排出特性に与える影響の検討

……松隈夏樹, 夏目響己, 兒玉 学

太陽光発電システムへの適用を目指した直流アーク発生箇所特定手法の提案 ……護得久真聖, 長谷川壮良, 津坂亮博, 加藤彰訓

不確実性のある EV 充電行動を考慮した PV 余剰活用ポテンシャル評価手法の開発

……関口陽太, 秋元祐太郎, 岡島敬一

学会カレンダー

国際会議名	開催場所	開催期間	URL, 連絡先, 開催・延期・中止の情報	アブストラクト	フルペーパー
8th International Conference on Smart Energy Systems and Technologies (SEST)	シウダー・レアル (スペイン)	26.9.2~4	https://www.sest2026.com/	26.3.2 済	26.4.27 済
2026 IEEE International Power and Renewable Energy Conference (IPRECON)	ケララ (インド)	26.9.4~6	https://iprecon.org/	—	26.2.15 済
24th International Conference on Gas Discharges and their Applications (GD2026)	リバプール (イギリス)	26.9.7~11	https://www.gd2026.org.uk/index.html	26.2.15 済	26.3.31 済
2026 IEEE Industrial Electronics and Applications Conference (IEACon 2026)	クアラルンプール (マレーシア)	26.9.7~8	https://ieeieacon.org/	—	26.5.1 済
43rd European Photovoltaic Solar Energy Conference and Exhibition (EU PVSEC2026)	ロッテルダム (オランダ)	26.9.14~18	https://www.eupvsec.org/index.php	26.2.2 済	—
IEEE International Conference on High Voltage Engineering and Application (ICHVE 2026)	サンパウロ (ブラジル)	26.9.20~25	https://www.ichve2026.com.br/	26.2.20 済	26.5.5 済
2026 the 13th International Conference on Power and Energy Systems Engineering (CPESE 2026)	大阪 (日本)	26.9.25~27	https://www.cpesenet/	—	26.6.10 済
2026 4th International Conference on Power and Renewable Energy Engineering (PREE)	東京 (日本)	26.10.3~6	https://www.pree.net/index.html	—	26.7.25 済
TENCON 2026 (IEEE Region 10 Conference 2026)	バリ (インドネシア)	26.10.10~13	https://tencon2026.ieee.id/	—	26.4.28 済
15th International Conference on Renewable Energy Research and Applications (ICRERA)	パリ (フランス)	26.10.12~15	https://www.icrera.org/	—	26.9.1 済
IECON 2026 (The 52nd Annual Conference of IEEE Industrial Electronics Society)	ドーハ (カタール)	26.10.18~21	https://www.iecon2026.org/	—	26.6.30 済
ISGT Europe 2026	ブダペスト (ハンガリー)	26.10.19~22	https://iee-isgt-europe.org	—	26.4.15 済
2026 2nd International Conference on Power Engineering and Electrical Technology	大阪 (日本)	26.10.28~30	https://icpeet.com/	—	26.7.30 済
IEEE ISGT Asia 2026	武漢 (中国)	26.10.30~11.1	https://attend.ieee.org/isgt-asia-2026/	—	26.8.20 済
2026 6th International Conference on Smart Grid and Energy Internet (SGEI)	宜昌 (中国)	26.11.13~15	https://www.sgei.info/	—	26.8.28 済
PVSEC-37 2026 (WCPEC-9)	大田広域 (韓国)	26.11.15~20	https://wcpec-9.com/en/main	26.6.30 済	—
2026 IEEE 2nd International Conference on Smart Power Control and Renewable Energy (ICSPCRE)	オディシャ (インド)	26.12.4~6	https://icspcr.org/	—	26.7.15 済
The 16th International Conference on Power and Energy Systems (ICPES 2026)	西安 (中国)	26.12.4~6	https://www.icpes.org/	—	26.7.20 済
24th National Power System Conference NPSC 2026	パトナ (インド)	26.12.12~14	https://npsc2026.in/	—	26.7.15 済
2026 IEEE International Conference on Power Electronics, Drives and Energy Systems (PEDES)	グワーハーティー (インド)	26.12.16~19	https://www.pedes2026.org/	—	26.6.30 済
The 21st IET International Conference on Developments in Power System Protection APAC	香港 (香港)	27.1.6~9	https://dpsp.theiet.org/2027-apac	—	26.9.4
IEEE Power & Energy Society (PES) International Meeting	北京 (中国)	27.1.10~13	https://www.pes-im.org/	—	26.7.31 済
2027 IEEE Electrical Energy Storage Applications and Technologies Conference (EESAT)	フロリダ (米国)	27.1.11~12	https://cmte.ieee.org/pes-eesat/	26.4.20 済	26.7.27 済
2027 3rd International Conference on Power Electronics and Electric Drives (PEED 2027)	南京 (中国)	27.2.27~28	https://www.icpeed.com/	—	26.11.15
2027 International Conference on Intelligent Computing and Control Systems (ICICCS)	マレ (モルディブ)	27.3.22~24	https://iciccs.com/2027/	—	26.12.26
International Electric Machines and Drives Conference (IEMDC)	ミルウォーキー (米国)	27.5.17~20	https://www.iemdc.org/	—	26.11.1
8th International Conference on Electric Power Equipment -Switching Technology- (ICEPE-ST2027)	新潟 (日本)	27.5.30~6.2	https://icepe2027.nuee.nagoya-u.ac.jp/	26.8.28 済	26.12.4
CIRE 2027 International Conference & Exhibition on Electricity Distribution	ストックホルム (スウェーデン)	27.6.14~17	https://2027.cired.net/	26.9.14	27.1.22
IEEE PES General Meeting 2027 (PESGM)	サンフランシスコ (米国)	27.7.25~29	https://pes-gm.org/2027-san-francisco/	—	26.10.6
The 25th International Symposium on High Voltage Engineering (ISH2027)	テッサロニキ (ギリシャ)	27.8.29~9.3	https://ish2027.gr/	26.11.8	27.3.1
The 62nd International Universities Power Engineering Conference (UPEC2027)	ラルナカ (キプロス)	27.8.31~9.3	https://cyprusconferences.org/upec2027/	—	27.4.30
IEEE PowerTech 2027	ブルーージュ (ベルギー)	27.9.5~9	https://powertech2027.com/	—	27.2.15
CIGRE 2027 SC A3 & B3 Joint Colloquium	東京 (日本)	27.10.25~29	https://cigre-jc2027.jp/	未定	未定
2028 IEEE PES Transmission and Distribution Conference and Exposition (T&D 2028)	アトランタ (米国)	28.4.24~27	https://ieeet-d.org/	未定	未定

*連絡先: 古梶 雅裕 (山口東京理科大学, furukakoi@rs.socu.ac.jp) 2026 年 11 月以降に開催予定の国際会議の情報がありましたらお寄せください。

2026 年度「日本のライフラインを支える電力設備」シンポジウム

電気学会 電力・エネルギー部門 静止器技術委員会では、「日本のライフラインを支える電力設備」と題し、大学生、大学院生、新社会人（特に、就職活動を控えた大学 3 年生、大学院 1 年生にも、ぜひご紹介ください！）を対象とした、電力に関する講義を履修したことのない初学者にも理解できるような、基礎から分かり易く解説するシンポジウムを下記により開催いたします。本セミナーを通して、世界一の電力品質をもつ日本の電力エネルギー技術を、若い世代に広く啓発活動し、電力エネルギー業界に興味をもってもらおうと同時に、静止器技術の普及促進とさらなる発展に寄与できれば幸いと存じます。奮ってご参加賜りますようお願い申し上げます。

日 時（見学会）2026 年 10 月 30 日（金） 10 時 00 分～12 時 00 分

（講演会）2026 年 10 月 30 日（金） 15 時 00 分～18 時 00 分

会 場（見学会）東京電力パワーグリッド株式会社 千葉印西変電所

（講演会）八千代市市民会館 第 3 会議室+Webex によるハイブリッド開催

概 要 「日本のライフラインを支える電力設備」シンポジウム

（見学会）データセンター需要増大に伴って新設、デジタル技術を導入した千葉印西変電所の見学を行います。

（講演会）下記 6 件の講演を行います。

「電力系統」

「電力エネルギーの安定供給を支える変圧器技術」

「電力品質を支えるコンデンサ技術」

「大電流技術」

「電磁界解析」

「電力ケーブル」

対 象 どなたでもご自由に参加下さい。特に大学生、大学院生、新社会人の参加を歓迎します。

参 加 費 無料

申込期限 2026 年 10 月 9 日（金）

定 員 見学会：学生・新社会人の方を優先し、申込人数が 10 名になり次第締め切ります。

講演会（現地）：申込人数が 60 名になり次第締め切ります。

講演会（web）：申込人数が 100 名になり次第締め切ります。

申 込 先 下記 URL（Google Form）からお申し込み下さい。

右の QR コードからでもアクセス可能です。

<https://forms.gle/3L1fmDVPKDD3HgaV9>

問合せ先 湘南工科大学 岩渕 大行

E-mail : iwabuchi(at)elec.shonan-it.ac.jp ※(at)→@



申込先 URL

主 催 電気学会 電力・エネルギー部門 静止器技術委員会

共 催 電気学会 電力・エネルギー部門 研究調査運営委員会

後 援 電気学会 東京支部